

さらなるレベルアップで好試合の連続！ 第4回ROBO-ONEレポート

あさの じゅんや
浅野 純也 (ライター)



8月8～10日、川崎市の産業振興会館においてROBO-ONEの第4回大会が開催された。これまで2日間にわたって開催されてきたROBO-ONEだが、今回から「ROBO-ONE Jr.」と「ROBO-ONE CtoC」という新しい競技カテゴリーが新設され、そのために日程が1日増えて3日にわたっての開催となった。ROBO-ONEという競技の浸透と参加者の技術力の向上は回を重ねるごとに著しく向上しており、今回も過去最高のエントリーを数えるとともに、一同をあっという間に驚かすパフォーマンスを披露するロボットが続出した。

ファミリーでROBO-ONE！

今回から新設されたROBO-ONE Jr.はROBO-ONE Junior with Familyと別名されどおり、家族で参加するROBO-ONEの下位カテゴリーだ。親子や兄弟など家族での参加が前提で、操縦者は中学生以下、ロボットのサイズも体長50cm、重量1kg以下、アクチュエータの数は10個以下で有線による操縦というのが主な規定。少ない自由度でも多彩な動きができるアイデアをコンパクトなロボットに搭載、それを手軽に競わせるというのが基本コンセプトだ。ジュニアとはいえROBO-ONEなので当然2足歩行や屈伸や横歩きもできなくてはならない。

今回は7体のエントリーがあり、母親と娘さん、中学生と高校生の兄弟などコンセプトどおりの参加者も見受けられた。ロボットについては参加した全機体の写真を掲載したのでそちらを見てほしい。参加数が少ないため試合数は少なかったが、そのレベルはハッキリ言って第1回のROBO-ONE大会を軽く凌駕していた。というのも歩行に関するパフォーマンスはカンペキだし、オリジナリティな武器を持ちたり、さらには起き上がり機能を持つ機体も数体。特に決勝戦はダウンの応酬で非常に見応えのある闘いが展開されていた。将来のROBO-ONE参加者も生まれること必至。ジュニアとはいえ侮れないカテゴリーになりそうだ。



杉山チームのお父さんと朝紀くん(小5)ガンダムのプラモを流用したロボット「GPストライク改」で参加した。



フクザワファミリーはお父さんと豪志くん(小3)が参加。「マルダ」は起き上がりこぼし風にスピーディに転倒復帰ができるロボットだ。



マルダの脚機構は2足としては非常にシンプルだが、丸いボディとのバランスが絶妙でヒザを曲げるとボディの丸みによって起きあがることことができる。



石田隆浩チームは、隆浩くん(中2)とお兄さんの賢司くんの兄弟。ロボット「RJVR」はハリセンを持っている。



マリリンズは大河原正篤くん(小3)と翔ちゃん(小5)の姉弟。ロボットは「ロボマサ」。試合中翔ちゃんは楽器で応援していた。



ドン・アリュス・チームはお父さんとお母さん、そして住井杏里奈ちゃん(小3)の3人で参加。ロボットは「ありまる」。お父さんはROBO-ONE本選にも参加、予選を突破している。



スギウラブラザーズは真武くん和巧美くんの兄弟で参加。妹さん2人は応援役だ。「ダイナマイザーJr.」は転倒復帰できるロボットだ。